

ありが

ヒューマン ドキュメント



柿元暁悟さんと母親の柿元和子さん。

かきもと しょうご [柿元 暁悟さん] 鹿屋市吾平町

交通事故で 高次脳機能障害に

平成14年11月16日の土曜日午後5時23分という時刻は、柿元和子さんにとって忘れられない時刻になっている。柿元正文・和子さん夫妻の長男、当時中学1年生の暁悟さんが、その時刻に、交通事故にあった。幸い命は取り留めた

が、暁悟さんには、左下肢の麻痺と記憶が連続せず数分前のことが思い出せない「集中力が続かない」といった高次脳機能障害の症状が後遺症として残った。

高次脳機能障害とは、交通事故などで大脳を損傷したとき後遺症として現れる記憶障害・注意障害・遂行機能障害などの認知機能障害のこと。本人に自覚がない場合が多く、外見からは分かりにくい「見えないう障害」といわれる。そのため、医療や福祉の現場でも対応が遅れてきた。最近になって認知されはじめ、厚生労働省の推計では、患者数は約30万人とされている。

暁悟さんの場合、高校受験が難関だった。中学の先生が暁悟さんを高校へ「つなぐ」ことに尽力され、結果として、中学の同級生も多い鹿児島県立高山高校が受け入れた。高校としても「高次脳機能障害」の生徒は初めてだったが、高校の教員・生徒とその家族、そして暁悟さんと家族にとっても実りの多い体験となった。暁悟さんの言葉にじっと耳を傾けて向き合ってくれる親友もできた。その友

達に誘われ、美術部に入った暁悟さんの作品は、鹿児島県高校美術展で入選した。賞をもらうことはものすごく励みになった。高校へは皆勤賞。充実した3年間を過ごすことができた。

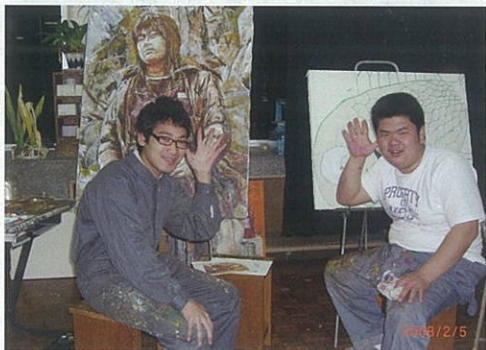
社会に出て働きたい

平成20年3月に高山高校を卒業し、現在、大分県別府市にある別府リハビリテーションセンターで、初めての一人暮らしをしながら、記憶の代償手段としてのメモ帳活用の習熟などの訓練を行っている。高次脳機能障害のリハビリ専門施設は少なく、この施設も歴史が浅い。別府の施設も新設で、訓練も試行錯誤だという。

次のステップは就職だ。暁悟さんの「社会に出て働きたい」という意欲は強い。しかし、高次脳機能障害のある者にとってハードルは高い。「住み慣れた地域でぶつうに暮らしていけたらいい



2008年10月の第8回全国障害者スポーツ大会・大分大会で、オープン競技「卓球バレー」に参加。暁悟さんのチームが銀メダル。



高山高校の美術部室で、友人の「まっちゃん」こと植村将行さんと。暁悟くんの高校生活を支えた大切な友達。植村さんから見ると「僕が暁悟くんのことをいろいろ世話しているように思われているけれど、反対に暁悟くんからいろいろ学んだりすることが多かった」という。



高校3年ときの作品「粉砕身」。鹿児島県高校美術展高校文化連盟賞。

ですよね。でも、多くの方が行くところがない。行く場所、居場所がほしい。だから、入学や復学、就労と復職が問題、そのバリアをなくしたいというのが和子さんたち家族の願いでもある。

高次脳機能障害「ぶらむ」鹿児島
鹿児島の高次脳機能障害者の家族団体。
代表 湯之前八束

TEL・FAX 0994(58)5023
TEL・FAX 0994(58)5023
TEL・FAX 0994(58)5023
TEL・FAX 0994(58)5023

鹿児島県高次脳機能障害者 支援センターがオープンしました

平成20年9月、高次脳機能障害者の理解と支援の充実をめざして、鹿児島県高次脳機能障害者支援センターが設置された。高次脳機能障害者の相談支援や、啓発活動などを行う。
〒890-0065 鹿児島市郡元3-3-5 鹿児島県精神保健福祉センター内
TEL.099-252-3366
◆電話相談 火・木・金(祝日除く) 9時~12時、13時~16時



障害者雇用率 0.87%から2.31%へ

鹿児島県の民間企業の障害者雇用率は1.89%で法定の1.8%を上回っているが、未達成企業も41.5%を占めている(平成20年度)。

株式会社Aコープ鹿児島は、平成15年度の障害者雇用者数は12人で雇用率0.87%だったが、平成16年度から障害者の雇用に積極的に取り組み、平成19年度には障害者雇用者数32人で雇用率2.31%となった。うち18人は大峯流通団地の「生活総合物流センター」に勤め、肉類のカット、包装、箱詰めを担当している。主力は知的障害者である。特に鹿児島特産の鹿児島黒豚や高級牛肉などのギフト用商品パッケージの丁寧な作業は好評で、注文も倍増している。

Aコープ鹿児島の障害者雇用改善は、卓間寛総務部長の改善が必要という提案に、物流事業部の四元志信加工課長らが、障害者(主に知的精神)に適した仕事を選定し、センターの空きスペースを活用して、製造ラインを創設したことから始まった。10代から20代の若手の障害者を雇用了。仕事との相性という点でも見事にはまった。適性がある障害者はほんとうに仕事に集中する。四元課長によれば彼らは自分の得意なことであればいくらでも楽しそうに黙々とやります。ですから上達も早い。適材適所でメンバーがそろっています。仕事によってヒーローが毎日変わるみたいな様子がありますね。」

障害者雇用に意欲的な地域密着型企业 株式会社Aコープ鹿児島

「毎日仕事ができ、人とコミュニケーションのとれる場所があるということは、彼らにとってすごくいいことだと思うんです」



生活総合物流センターでの作業。



鹿児島黒豚のギフト商品など、障害者の作った製品はAコープのオンラインショップで購入できる。



株式会社Aコープ鹿児島

〒890-0033 鹿児島市西別府町3200番地9

[URL] <http://www.acoop-ks.co.jp>

Aコープ鹿児島はJA鹿児島県経済連のグループ企業で、鹿児島県産にこだわり「地産地消」「安心・安全」「地域密着」をモットーに、地域に根ざした特色ある店づくりを目指している。鹿児島県内各地に67店舗、大峯流通団地に生活総合物流センターを構える。年商約500億円。従業員数約1900名。



卓間総務部長と四元加工課長。

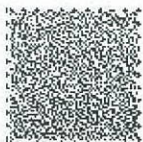
適性を見つけて いかに活用できるか

卓間部長によれば彼らの特徴は勤勉なこと。月22日働くと、ローテーションがきちつと回り、運用がしやすい。家庭のあるパートの女性にとつて残業無しは大切なことで、無駄な残業が減り職場の雰囲気もよくなった。一方で、彼らは台風でも病気でも出勤するような生真面目な一面もある。そういうときは休ませるように保護者をお願いしている。保護者とも会を設け、連絡を取りあつて、問題点を話し合うようにしている。

また、障害者雇用納付金制度で、法定雇用率(1.8%)未達成のときは1人月5万円の負担金を払う必要があつたが、法定雇用率を達成したことで、給付を受ける側になつたこともメリットとなつた。

四元課長は企業等に、障害者の法定雇用率達成が入札や納入の条件になるシステムの構築を検討してもらいたいという。「そうすれば障害者雇用が進むと思いますね。それから彼らが加工した鹿児島県産品をいっぱいお買い上げいただければ、彼らの雇用が確保されるという点についてもよろしく」と笑つた。

卓間部長は言う。「毎日仕事ができ、人とコミュニケーションのとれる場所があるということとは、彼らにとつてすごくいいことだと思つています。障害者が働きやすい職場は、いい職場だと世間が認知してくれるといいのかな。その点、うちはいい形になつていないんじゃないですかね。」



KAGOSHIMA

鹿児島県内のいろいろな建物や施設、
あるいは人の心の中にあるバリアを取りはらわれています。
一人ひとりが、より快適で自由な暮らしが営めるように。

バリアフリー最前線

Barrier Free-Saizensen



駐車場全景。リモコンゲート式を導入している専用駐車場は全国でも20カ所弱とまだ数は少ない。



ショッピングセンター外観。

平成20年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰「内閣府特命担当大臣表彰優良賞」受賞

イオン鹿児島ショッピングセンター

(鹿児島市)

住所 〒891-0115 鹿児島市東開町7番
TEL 099-263-1800 (代表)
ホームページ <http://www.aeon-kyushu.info/kagoshima/index.html>
開館時間 ジャスコ 10:00~23:00まで
物販専門店 10:00~22:00まで
レストラン街 10:00~23:00まで
※一部営業時間が異なる店舗がある。
年中無休

イオン鹿児島 検索

案内、オストメイト対応大型ブース、

●イオン鹿児島ショッピングセンターは、平成19年10月にオープンした本格的モール型ショッピングセンター。お客様が快適に買い物を楽しめるよう、ユニバーサルデザイン(以下、UD)を導入している。平成19年2月から2カ月間で計4回、県内の障害者10団体と鹿児島市を集めた意見交換会を開催し、その中で出された意見を随所に反映させた。導入したUDの中で、お客様に一番喜ばれているのは、リモコンゲート式身障者専用駐車場。21台の駐車スペースのうち、11台は屋根付きで、入口にリモコンまたは定期券で開閉するゲートが設置されている。利用にはまずインフォメーションセンターがサービスカウンターに申請し、専用のリモコンまたは定期券を貸し出してもらう。障害者だけでなく、妊婦や、怪我などで一時的に車椅子を利用の方も、期限付きで利用可能となっている。



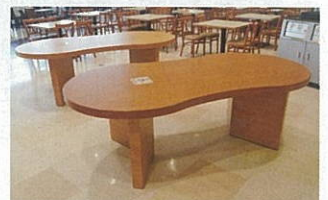
ゲートリモコン。現在、リモコンを2000個、カードを700枚程度貸し出している。

全個室に手すりを完備している。また、一般のトイレに加え、「みんなのトイレ」という多目的トイレを設置。誰でも利用でき、車いすで方向転換が可能な広いスペースに、オストメイト・乳幼児同伴対応の設備などを完備している。

館内の移動は、柱や壁、床には大きめの案内サインが表示され、エレベーターの階数表示や押しボタンも明るく大きめに作られるなど、わかりやすい工夫されている。



車イス・ベビーカー用試着室はジャスコの紳士服やマタニティー売場のほか、専門店街の中にも2店舗ほど導入している。



[写真上]みんなのトイレ。入口サインは、青が男性、赤が女性、黄色がみんなのトイレを表している。
[写真中]フードコート車イス用テーブル。車イス4台が同時に利用できる。
[写真下]ベンチは店内に200台以上、外にも50台以上設置されている。



インフォメーションセンター。カウンターには筆談用の聴力障害者メモ帳も用意してあります。



館内の施設を紹介したフロアガイド。入口や広場のラックで手に入る。

●お客様さまサービスマネージャーの嶋川修治さんは「障害者にバリアフリーであるだけでなく、妊婦や親子連れ、高齢者などすべてのお客様にとって快適な空間であるよう、ユニバーサルデザインを取り入れています。オープンから1年経ち、今はより良い空間作りのため、お客様の声を集めているところ。これから「も頑張ります」と話した。

